

タイトル		I'm Here			
著者（文・絵）		Peter H. Reynolds			
出版年		2011 年	出版社	Atheneum Books	
翻訳版		『ぼくはここにいる』 ささきたもつ訳、小峰書店、2013 年			
総語数	200 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	N/A
あらすじ					
小学校の校庭で子どもたちが大勢楽しそうに遊んでいます。そこに“Can you hear it?”「ねえ、聞こえる？」という語り手の声が聞こえてきます。語り手に名前はありません。“T”とだけ書かれるので、性別もはっきりしません。絵は男の子とも女の子とも取れるように描かれています。“T”は、楽しそうに遊んでいる子どもたちの輪からはずれ、ひとりで地面にすわりこんでいます。 風とともにやってきた 1 枚の紙を使って、“T”は紙ひこうきを折り始めます。“T”の想像は、紙ひこうきとともに羽ばたき、“T”を星の瞬く空へと運んでいきます。“T”は大きな声で叫びます。“I’m here!”「わたしは/ぼくは、ここにいる！」 やがて、紙ひこうきは地上へと降りてきますが、そこで紙ひこうきを受けとめてくれたのは、さっきまで校庭で遊んでいたたくさん子どもたちでした。“We’ve got you!”「つかまえた！」子どもたちは、“T”を乗せた紙ひこうきを力いっぱい空に飛ばします。ふたたび紙ひこうきが地面に静かに着地する頃、“T”のところにひとりの女の子がやってきます。“Friends. 「友だちだね。」 女の子が言います。“I’m here.”「わたしはここにいるよ。」 “T”も言います。“Me, too. I’m here.”「わたしも/ぼくも、ここにいるよ。」					
紹介					
誰も、新学期や新しい環境での生活が始まったときに、自分だけ周囲から取り残されているような気持ちになることがあります。向こうで楽しそうに遊んでいる友人の輪に思い切って入れない、もどかしい気持ちです。I'm Here は、そんな微妙で繊細な主人公の気持ちに寄り添ってくれる本です。“T”による語りは静かですが、詩のように歌のようにリズムカルです。“Boom. Boom,” “Up, up, up, up!”といった音や動きを示す言葉が効果的に使われているので、音読すると、この絵本の世界観をより深く感じることができます。言葉には音があり、その音が辞書的な意味以上の何かを表現するということが、音読を通して身体に直に感じられます。私は、息子の通う小学校のボランティアで、5 年生に英語で読み聞かせしましたが、日本語で補足すれば十分に理解できたようです。大学生には、自分で BGM を選んで音楽に合わせて音読することを勧めました。ぴったりの音楽が見つかり、絵本の感動がずっと広がるでしょう。 レイノルズの作品は、ときにやや説教くさかったり、感動モード全開だったりするのですが、I'm Here はそこをうまく回避していて、「うまいなあ」とうならされます。					

指導ポイント、授業活用例、学生の声など

【一人称をどう訳すか】

“I”をどう解釈するかというのは、この絵本の中で重要な着眼点になります。主人公の“I”に名前はありません。絵を見ても、男の子とも女の子とも取れるように描かれています。英語の場合は、性別に関係なく“I”でいいのですが、日本語の場合、これを「わたし」とするか「ぼく」とするか、あるいは「おれ」とするか「あたし」とするか、はたまた（この絵本の場合は当てはまりませんが）「わし」「おら」「わたくし」「わて」にするかで、人物の性別だけでなく年齢、育ちや性格までも限定されます。英語で書かれた文章を日本語に翻訳する場合に、これはとても重要な問題となります。

さて、この絵本の場合はどうでしょうか。ささきたもつ訳は『ぼくはここにいる』と男の子として訳していますが、私は主人公は女の子であると思って読んでいました。さて、皆さんはどう思われますか。

【音を表す言葉】

先に紹介したように、“Boom. Boom,” “Up, up, up, up!”といった音や動きを示す言葉が効果的に使われているので、音に注目させる指導をすると、この絵本の良さが引き立ちます。音読、BGM に合わせた音読などが有効です。

【“I’m here”をどう訳すか】

タイトルになっている言葉が、本文中でどのように使われているかには、注意を払う必要があります。*I’m Here* の場合、タイトルと、本文中で何度も出て来る“I’m here”がすべて同じ意味かという微妙です。どのような訳が可能かと問い、どんどん意見を出してもらい、その中から最も適切なものを見つける、といった活動もおもしろいでしょう。

【授業活用例】

➤ BGM を自分で探して絵本を音読する活動

本 HP にて紹介している他の絵本数冊と組み合わせ、受講者に好きな絵本を選ばせて読み聞かせ活動を行います。その際、絵本の内容に合った BGM を探してこさせ、その音楽に合わせて絵本を読むのです。音楽が入ると雰囲気がグッと出て、聞く方も読む方も絵本の世界に入りやすくなります。*I’m Here* は、この活動にとても合っています。あるいは、絵本は *I’m Here* だけに限定し、BGM を自由に選ばせて、どの BGM が最も絵本の内容と合っていたか、絵本の内容への理解が深まったか、などを比べてみるのもおもしろいと思います。

BGM を使用すると読み聞かせの音が聞こえにくくなる場合もあるので、音量調節に配慮する、あるいはマイクを使って読み聞かせを行うなどの工夫をするとよいでしょう。

➤ 絵本を読んでブックレポートを書く活動

この活動も、本 HP にて紹介している他の絵本数冊と組み合わせて行います。例えば 5 冊の絵本をクラス全員に読ませ、一番好きな絵本を選んでもらいます。そして、なぜその本が一番いいと思ったのか理由を英語で書きます。例えば、以下のような簡単なフォーマットを提示すると、英文でブックレポートが書きやすいでしょう。

<ブックレポート例>

I chose _____ as my favorite picture book.

The 1st reason is that _____ .
supporting sentences→

The 2nd reason is that _____ .
supporting sentences→

For these reasons, I like _____ best.

関連作品・参考 URL

【Reynolds による他のお薦め絵本】

- *The Dot* (Walker Books, 2003) (『てん』 谷川俊太郎訳、あすなろ書房、2004 年)
こちら、絵を描くことをめぐるお話です。絵が描けなくて困っている小学生くらいの主人公に、先生が声をかけます。「まず何かしるしをつけてごらん下さい。」そこで dot (点) を紙の中央に描くと、先生がこの絵を飾ってくれます。それを見た主人公は、「もっといい点が描けるはず！」ここから、独創的な dot の絵が次々に生まれます。絵はこう描かなければならないという思い込みから読者を解放してくれる絵本です。
- *Ish* (Walker Books, 2004) (『っぽい』 なががわちひろ訳、主婦の友社、2009 年)
絵を描くのが好きな幼い主人公。お兄ちゃんに絵を笑われてから、絵を描くのが嫌になってしまいます。でも、妹の何気ない一言が主人公の描きたい気持ちにもう一度火をつけます。その言葉が“ish” (～ぽい) です。接尾辞 ish の使い方を楽しく学ぶことができます。
- *Someday* (Little Simon, 2007) (『ちいさなあなたへ』 なががわちひろ訳、主婦の友社、2008 年)
母の視点から、娘を育てる日々が綴られます。生まれたての赤ちゃんだった娘は自転車に乗れるようになり、泳げるようになり、思春期をくぐり抜け、やがて母となり…。母から娘へと生が受け継がれていく様子が詩のような短文とシンプルな絵で描かれます。

備考

本稿の一部は大修館『英語教育』2019年6月号（Vol.68, No.3）の口絵「絵本を探しに」[3]の原稿を大幅に改訂したものです。

（文責：深谷素子）